

[第901回ゼミ報告] 2025年5月9号

「コンクラーベ」→「根比べ?」と思いきや、早くも2日目に煙突から白い煙が上り、下馬評に反しアメリカ出身枢機卿が初めてローマ教皇に。

4月23日ゼミは、佐々木隆治『マルクス 資本論』の「はじめに」・「人と作品」を高田の報告で行いました。マルクスの思想は20世紀の歴史・社会運動に影響を持ち、マルクス主義を掲げる国家：ソ連・中国が生まれたが、1970年代にソ連型の行き詰まりで影響力が低下、1989年の「ベルリンの壁」崩壊からソ連・東欧の「社会主義国」が解体、資本主義の繁栄で、マルクスの理論的誤謬が指摘され、「マルクス主義者」は『資本論』を捨てた。しかしマルクスを捨てなかった知識人達は、資本主義の「終焉」研究へ、経済成長率の低下・長期低迷・9.9%運動・中間層空洞化・ポピュリズムに対し、「マルクス主義」ではなくマルクスその人に理論に再び注目した。マルクスの復権は、資本主義の矛盾・貧困と格差・金融恐慌・環境破壊などをマルクス自身のテキストから可能性を見出すことにある。この本は、『資本論』を「マルクス主義」でなく、マルクスのテキストとして読み、ガイドするのが目的である。『資本論』の最終目的は、近代社会の経済的運動法則を暴露し、社会の産みの苦しみを短く和らげることにある。人間は恣意的に社会を変革できないが、生産力と生産関係の矛盾から変革の可能性と条件を見出し、物質的条件が孵化したとき社会を変革できる。主流派への「経済学批判」により、商品・貨幣を自明とせず、その存在を根本から問い直し、資本主義が歴史的形成物で、異なる経済システムへの移行を問う。

討論では、前期共同体の分析は『資本論』から導き出せるのか。生産力と生産関係を経済的な還元論に陥るのではなく、そこに変革を読み取る。生産力・生産関係そして生産様式について、生産活動として人と人との関係、人のモノとの関係を生産諸関係とし、生産様式はその全体をさすのではないか。「唯物史観」はマルクスの意図とは異なるのでは。史的唯物論、あるいは唯物史観の用語はマルクスには出てこない、エンゲルスからか、誰が名付けたのか、ソ連か。向坂訳・長谷部訳・岡崎訳・「新訳」等々を話し合う。会場参加は川口さん・山口さん・高田、オンライン参加は竹内さん・後藤さん・井貝さんの合計6名の参加でした。

\* 5月14日(第2週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 861 4559 4550 パスコード: 789651

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

- 5月14日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
グレーバー『万物の黎明』4章 自由民・諸文化・私的所有 田中さん
- 5月28日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
佐々木『マルクス 資本論』1編 1章商品 1・2節 報告後藤さん
- 6月11日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
グレーバー『万物の黎明』5章 いく季節もむかしのこと 報告者未定  
その後 6/25, 7/9, 7/23 [アイクルの部屋]